

第5学年 道徳学習指導案

太田小学校5年 男子5名 女子2名 計7名

授業者 猪子研司

1 総合単元名 責任をもって

2 総合単元設定の理由

人間は社会の中で、その一員としていろいろな役割を担い、それぞれにその役割を果たすことで共に生きている。子どもたちも、学校という社会のなかで、委員会活動や当番活動等の役割を責任をもってやりとげながら、生活を共にしている。お互いが気持ちよく過ごすには、友達と心を通い合わせ理解を深めることが大切である。また子どもたちは思春期にさしかかり、男女の関係にも微妙に変化が表れる学年である。あと数か月で6年生となり、自分たちがリーダーとなって下級生を引っ張っていかなければならない。そこでは自宅と違いわがままは通らない。自分たちのことは自分たちでしなければならぬし、慣れないことや初めて体験すること、自分の希望通りに添えないことも出てくる。そこで、男女が協力しあい、各人が役割を分担し、それを責任をもって果たそうとする心情や態度を養うことが大切であると考え、本単元を設定した。

子どもたちの実態をみると、明るく素直で活動的である。単学級で生活してきているので、お互いのことはよく知っている。気の合った友達同士で仲良く遊ぶ姿がよく見られる。男女の仲も良いが、時としてそれぞれの思いがぶつかり合う姿も見られる。遠足や異学年班活動、委員会活動等において、6年生と共に活動する中で、集団の一員として役割を果たそうという気持ちは徐々に育ってきている。運動会でのスタンプ・係の活動においては、みんなのために役割をきちんと果たし真面目に活動することができた。しかし、運動会の後かたづけや日常の掃除や作業等は、さぼって楽をしようとしたり、おもしろそうな仕事をしたがったりする様子もみられる。

指導にあたっては、道徳の時間を中心に学級活動、家庭科、総合的な学習の時間、学校行事等に関連させて、総合単元的な道徳学習を行う。「男女が協力しあって、責任を果たそう」という視点から学習を進めていく。各活動において、お互いを理解しあって協力することや、仕事への積極的関わり、そして責任を果たす気持ちや態度を養いたいと考える。

3 総合単元の目標

各人が役割を分担し、男女が協力しあって責任を果たそうとする心情や態度を養う。

4 単元構成について

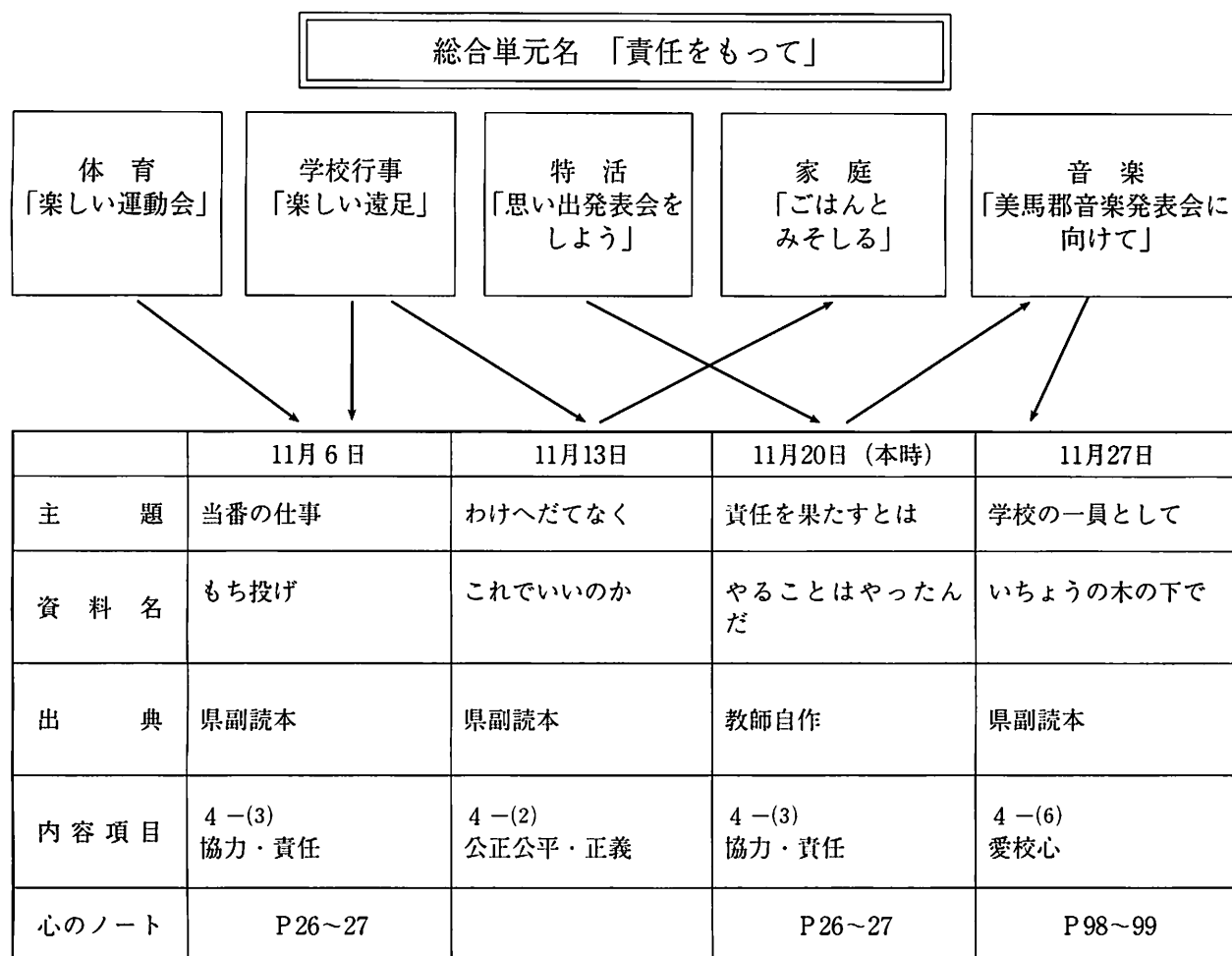
本単元では、男女が理解しあい協力しあって、責任を果たそうとする心情を育てるために、学校行事や総合的な学習の時間、家庭科等の学習と関連させて取り組みたい。

学校行事「楽しい遠足」では、自分の役割を自覚し責任を果たすとともに、男女が理解しあい協力し助け合うという心情を高めることをねらいとする。帰りの会での、掃除や当番活動等で責任を果たし協力できた友達の紹介や、この時期に実施するアピール大会により、男女が協力し責任を果たそうとする心情をさらに高めたい。

そして、特活「思い出発表会をしよう」の学習では、集団の中での自分の立場や役割を自覚し、自分

の意に沿わなくても、みんなのために協力して責任を果たそうという心情や態度を養うことをねらいとする。

さらに、家庭科において「ごはんのみそしる」の調理実習を行う。子どもたちが自分の役割を果たし、お互いに協力しながら、調理を行わせたい。また、自分の役割を果たしたり、励まし合ったりする場として、音楽で「美馬郡音楽発表会」の練習を位置づけた。そこでは、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たし、励まし合おうとする心情が大切であることも合わせて指導したい。



〈常時活動〉

- ・帰りの会（掃除や当番活動等で責任を果たし協力できた友達の紹介）
- ・帰りの会（自分をアピールしよう）
- ・責任をもって自分の仕事を果たそう（当番，係，委員会）
- ・ニコニコの木（友達のいいところ探し）

5 本時の学習

(1) 主 題 名 責任を果たすとは

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

4-(3)	身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
-------	--

人はそれぞれの生活の中で、何らかの集団に属しながら生きており、その集団の機能に応じて分業化・分割化し、お互いが一定の役割を担いながら協力してその集団の機能を果たしている。そして、個人の担った役割が責任をもって果たされることにより、集団のもつ機能が高まり、個人の集団への帰属性が確かなものとなっていく。従って、個人の集団の中で担う役割、つまり、一定の内容をもった仕事に対する責任感の自覚が大切である。

しかし、一方では集団に属してしまうと、「みんなでやるんだから……」「誰かがやってくれるだろう」などのように、個人の担う責任への自覚が薄れやすい。個人が担う責任があいまいになって、互いへの責任転嫁となりやすいのである。これは、責任に対する受動的な態度に起因する。いわゆる「やらされる」という考え方や態度である。従って、集団が果たすべき機能に対する自覚が大切であると同時に、個人の担う責任への主体的な自覚が重要である。集団の一員としての主体的責任があればこそ、互いに協力して取り組む姿が生まれるのである。

〈子どもの実態〉

高学年になった子どもたちは、係活動や当番活動などの学級内の仕事のほかに、委員会活動やクラブ活動、地区子ども会の仕事も増え、集団内における自分の果たすべき役割や責任への自覚も見られるようになった。また家庭生活においても、自分の仕事を見つけ取り組んでいる子も少くない。仕事を任されている集団の中の一員として、新しい仕事に積極的に取り組んでいる姿も見られる。その反面、自分の仕事を他人に押し付けたり、また誰かがやってくれるだろうという他人任せな面も多く見られる。

こうした児童に、社会や学校はたくさんの人たちで構成され、一人一人が構成員の一員としての自覚をもち、責任を果たさないと自分が困るだけでなく周りにまで迷惑がかかることを理解させ、もう一度、自分の果たすべき役割や責任が何かを考えさせたい。

〈資料について〉

主人公まさるたち3班の仕事ぶりは、多くの子どもたちから賞賛される場所である。まさるたちは担当した渡り廊下の掃除を一生懸命にやったのだ。きれいにしなければならぬという掃除の目的も自覚されていたからこそ、汚されたときにくやしい思いにもなったのだ。子どもたちの批判は、こうしたまさるたちの心情を思ったとき、汚した者に対してそそがれる。しかし、まさるたちが果たすべき本当の責任は何だったのか。来客の人にすがすがしい気持ちで廊下を通ってもらうこと、自分たちの学校のイメージをこわさないということに掃除の目的があったはずである。そのことを自覚できていなかったらこそ、汚れているのを知りながら帰ってしまったのである。こうしたまさるを弁護する立場と批判する立場の者が、相手の言わんとするところに共感しつつも、自分の考えを述べ合うことにより、まさるが渡り廊下へと向かった真意に気付かせたい。

資料名「やることはやったんだ」(教師自作)

(3) ねらい

自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を養う。

(4) 展開

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点						
1 毎日の掃除の時間を振り返り話し合う。	<p>○毎日みんながしている掃除に点数を付ければ何点ですか。その理由も発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80点です。そのわけはきれいになるまで一生懸命掃除をしているからです。 ・今までは仕事をけっこうさぼっていたので50点です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除をテーマにすることで、資料への導入を図ると共に、本時が責任について考える時間であることを知らせる。 						
2 まさるの考え方や行為について次の観点から話し合う。	<p>○汚された渡り廊下をそのままにして教室に帰ったまさるについて、どんな感想をもちましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・汚された渡り廊下をそのままにして教室に帰った主人公の行為に感想を絞り、問題意識の共通化を図る。 						
<p>汚された渡り廊下をそのままにして教室に帰ったまさるは責任を果たしたといえるだろうか。</p>								
<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命掃除をして美しくした。 ・汚したのは他の学年。 ・掃除の時間はまだ5分残っている。 ・雑巾を手にし渡り廊下に向かったまさる。 	<p>○一生懸命掃除をしたということから考えるとどうでしょう。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <p>〈弁護〉</p> <p>【責任を果たした】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命掃除して美しくしたんだから責任を果たした。 </td> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <p>〈批判〉</p> <p>【果たしてない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡り廊下をきれいにするのが仕事だから、やり直すべき。 </td> </tr> </table> <p>○汚したのは他の学年ということから考えるとどうでしょう。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・後から汚した他の学年が悪い。 </td> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学年の子もわざとじゃない。 </td> </tr> </table> <p>○まだ5分残っているということから考えるとどうでしょう。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・責任は果たしているから無理に行く必要はない。 </td> <td style="text-align: center; width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで美しくする責任が残っている。 </td> </tr> </table> <p>○十分責任を果たしたと思えるのに、雑巾を手にし、渡り廊下に向かったのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この日の責任はお客さんを気持ちよくお迎えすることだ。 ・自分たちの学校のイメージをこわしたくない。 	<p>〈弁護〉</p> <p>【責任を果たした】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命掃除して美しくしたんだから責任を果たした。 	<p>〈批判〉</p> <p>【果たしてない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡り廊下をきれいにするのが仕事だから、やり直すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後から汚した他の学年が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学年の子もわざとじゃない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任は果たしているから無理に行く必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで美しくする責任が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの論点を明確にし、弁護と批判のどちらの立場かを明らかにさせる。 ・手が冷たくても、雑巾がけが難しくても、一生懸命掃除をしたというまさるの思いに十分共感させる。 ・なんともいえない腹立たしいまさるの気持ちに共感させるとともに、汚した者にこそ責任があるとする弁護側の考えに十分に共感させる。 ・残り5分で果たすべき責任について考えさせる。 ・自分が担っていた本当の責任に気付いたからこそその行動であったことを理解させる。
<p>〈弁護〉</p> <p>【責任を果たした】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命掃除して美しくしたんだから責任を果たした。 	<p>〈批判〉</p> <p>【果たしてない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡り廊下をきれいにするのが仕事だから、やり直すべき。 							
<ul style="list-style-type: none"> ・後から汚した他の学年が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学年の子もわざとじゃない。 							
<ul style="list-style-type: none"> ・責任は果たしているから無理に行く必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで美しくする責任が残っている。 							
3 自分自身の生活について振り返る。	<p>○今日の勉強をして、毎日の掃除を満点にするためには、どんな心が大切だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して最後まで責任をもって分担場所を美しくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が受けもっている役割や責任について、足りなかった感じ方や考え方に気付くことができるようにする。 						
4 教師の話を書く	<p>○最後まで責任を果たしたがゆえにこんな良いことがありました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践意欲を高めることができるようにする。 						

(5) 評価の観点

・自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を養うことができたか。